



生徒物語

今、55年の時を経て高等工科学校へ
生まれ変わる少年工科学校生徒の物語



※物語中の事件、登場人物は実在するものではありませんが、学校の行事、制度、教育、訓練、設備に関しては実在するものです。内容の責任については、本作品の作者である副校長（三原 光明）にあります。

2009.9.1

みよ

みんな…

なんで…

泣いてんだ…

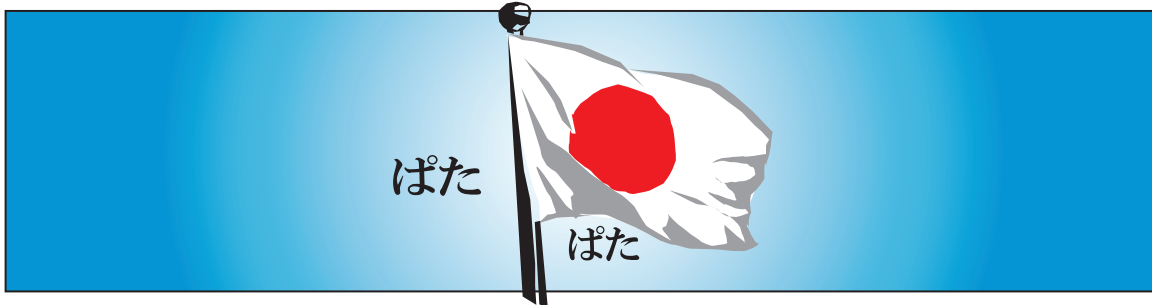


たけやま まもる
第一話 『第52期生徒 武山 衛』

narration



今、僕は語りたと思う。
十五歳から十八歳までのことを。
三年間、僕は変わり続けた。
もちろん、僕は、今も、変わりつつあるし、問題も
何一つ解決していないし、それも、増えこそすれ、
減つてもない。でも、十九歳の今でしか、語れない
ことを残しておきたい。後に続く後輩達のために…

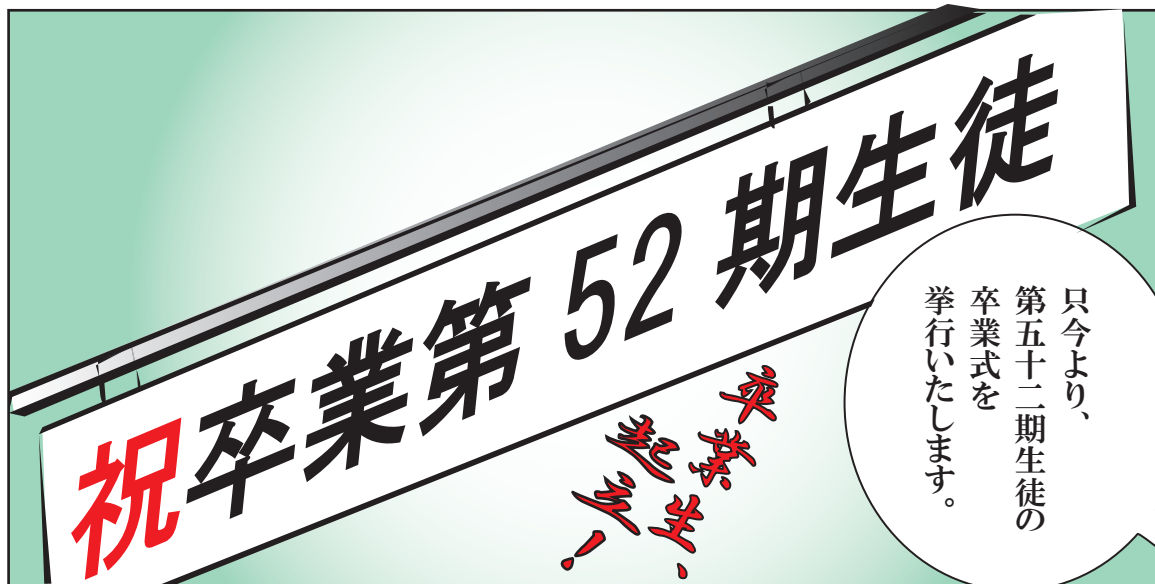


二〇〇九年春、
三浦半島の西海岸には
朝から
いつものような強い
海風が吹いていた。



僕の第二の故郷…
三年間、学び、食べ、走った、ふるさと武山駐屯地。
前は海、後ろは山、湘南海岸のさらに東、三浦半島の
付け根付近にある。ここには、陸海空、それぞれの
部隊があつて、毎年春から夏にかけては人口が二千人
以上も増える。ここが陸海の新隊員が最初の教育を
受ける場所だからだ。

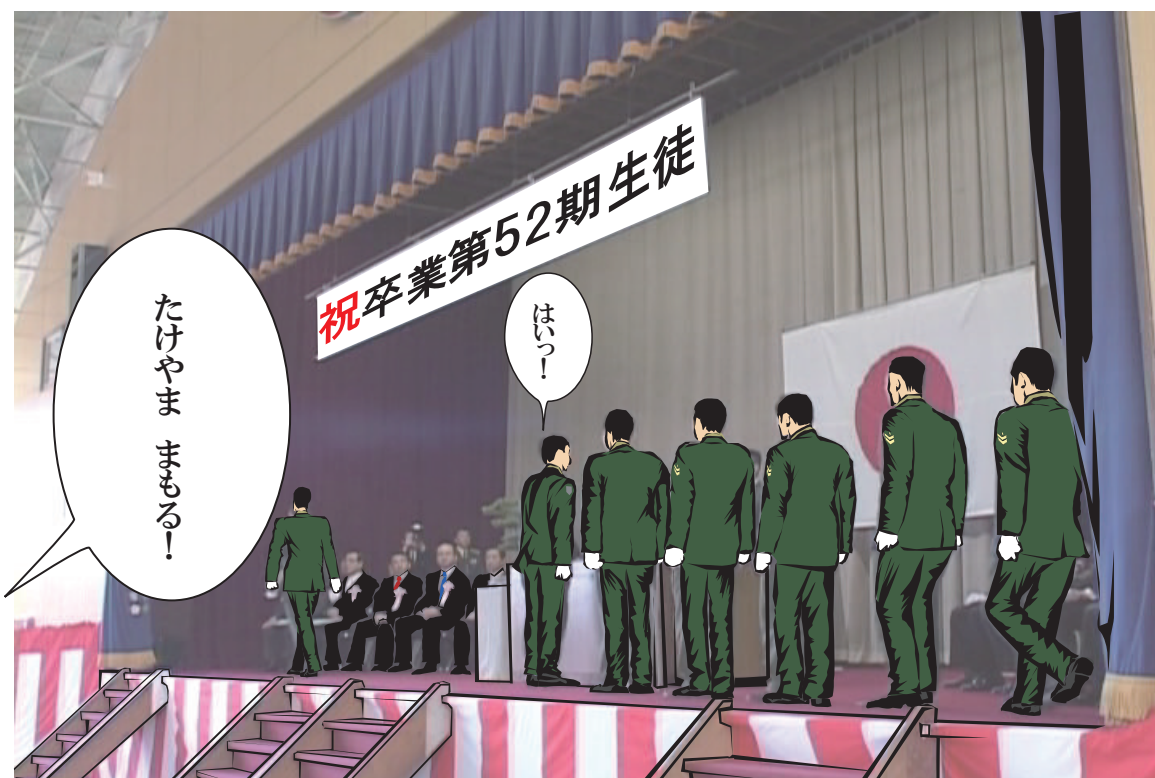
今日、僕は陸上自衛隊少年工科学校を卒業する。卒業式は、毎年、古くなった体育館で行われる。数年後には立派な講堂や新体育館ができると聞かされていたが、それを使えるのは少なくとも来年入る生徒からだ。



卒業生代表の答辞を読むのは生徒会長の荒崎だ。
荒崎は横須賀市の弁論大会で優勝するほど弁が立つのに、今日は口が重い。
かむなよ、感情入りすぎだぞ！
荒崎！



体育館が古いと言ったが、僕はここが嫌いじゃない。
年代物ではあるけど、大切に使い込まれていて、
アンティークっぽい雰囲気が入っている。
卒業式になると、古びた体育館が、ヨーロッパの
教会のように見えるのは何故だろう。



卒業式典は終わったのに、
荒崎はまだ泣いている。
おいっ、
荒崎：
泣きすぎだぞ。



レスリング部のキャプテン
三崎も
泣き始めたじゃないか…



いつもクールな三浦も、
去年は「俺は、五十一期みたいに泣かないぜ」
と豪語していた逗子の奴も…
何で号泣しているんだよお…



小学校から中学校にかけて僕はゲームの世界に夢中でめり込んでいた。そこでは、僕は「ちから」や「すばやさ」を持つ勇者だったが…

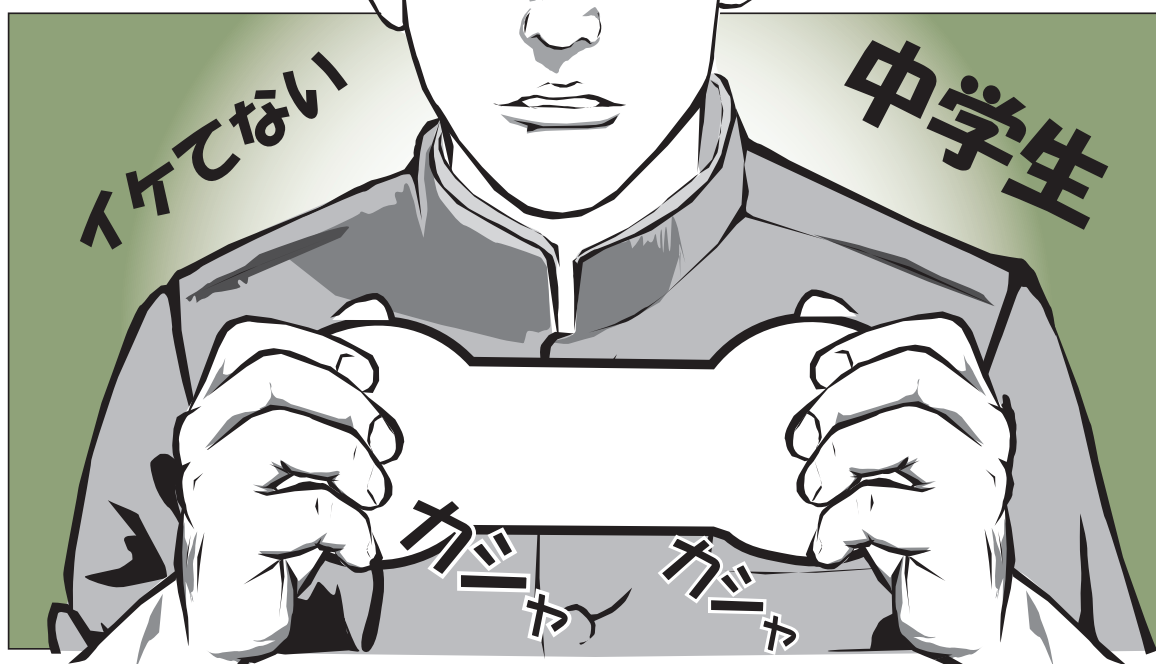
スイッチを切って現実に戻ると、ただの目立たない、ごく普通の「イケてない中学生」だった。

中三の頃の僕の夢、いや、妄想は、経験値を上げて、キャラレベルを高め、共に闘う仲間や武器も手にいれて、孤独な主人公だった僕が、無敵の勇者になることだった。

めだたない中学生

一般的
な

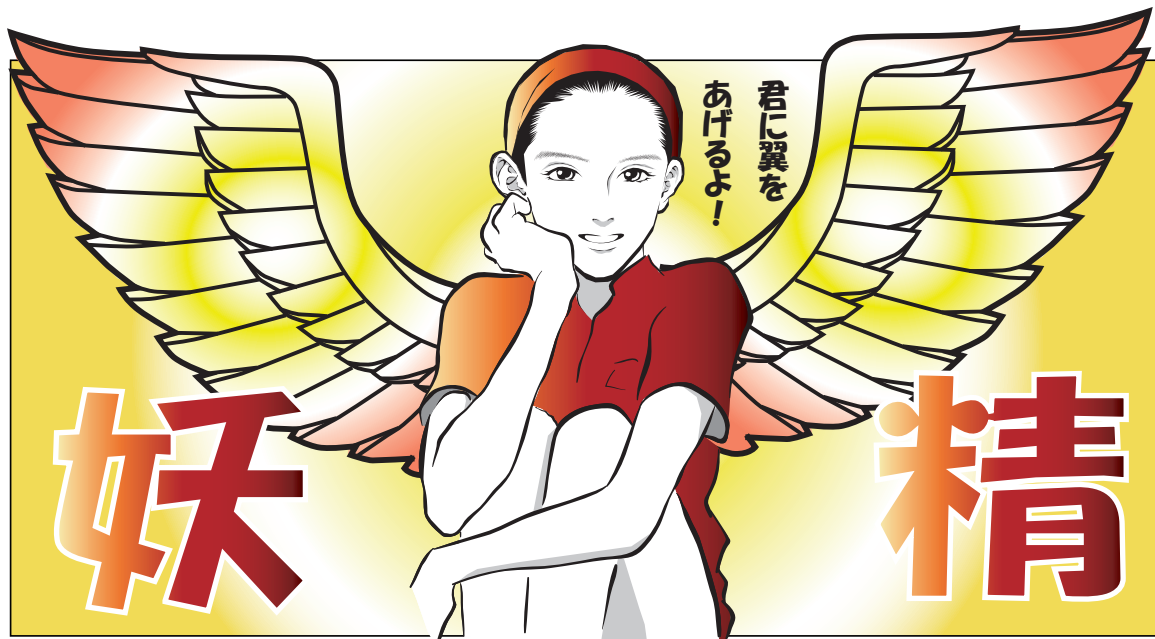
中学生



勇

者





君に翼を
あげるよ！

こんな時、
閉塞された中学生活という
ダンジョン（迷宮）から
抜け出す翼をくれた
妖精が現れた。



君に志願票を
あげるよ！

その妖精の名は、
僕の近所に住んでいて
自衛隊帯広地方協力本部
に勤務する佐藤さん。
：妖精でした僕にとっては。

帯広地方協力本部
十勝地区隊
佐藤 大 准尉 (55)



佐藤さんの自慢の二人の息子さんは、
うちの中学では伝説の兄弟で、
僕のあこがれの二人でした。

一郎さんは、
防衛大学校を卒業し、
当時、練馬にある第一普通科連隊の
レンジャー教官でした。

二郎さんは、
輸送ヘリの整備のプロで、
この時は、幹部候補生試験に
合格していました。

佐藤さんが、勧めてくれたのが、
二人の息子さんが卒業した
少年工科学校でした。

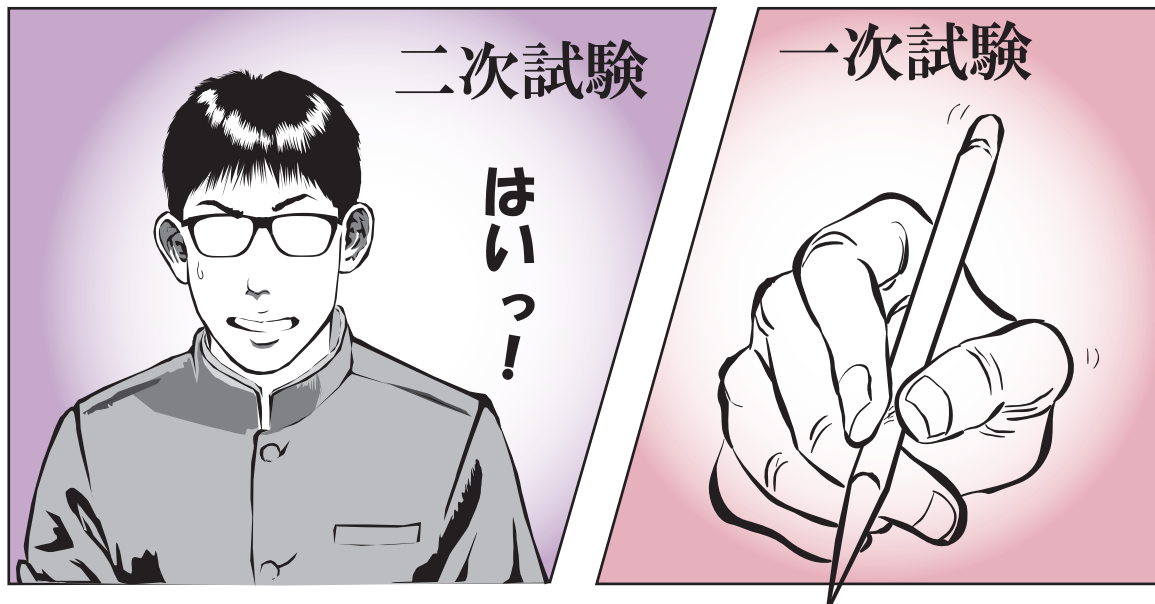


息子達の卒業した
少年工科学校を
受験してみないか。

まもるくん。
君なら成績が良いから、
大丈夫だよ

※少年工科学校
卒業生の約九割が
最終的に幹部に
なると言われて
います。



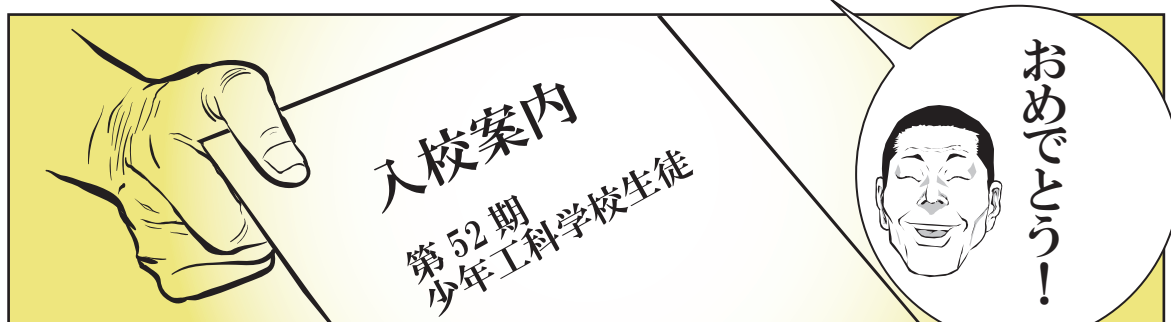


二次試験

一次試験

はいっ!

受験した。



入校案内
第52期
少年工科学校生徒

おめでとう!

合格した。



あなたには、無理!

佐藤さんの御兄弟は
優秀だったし、
スポーツも万能だったのよ。

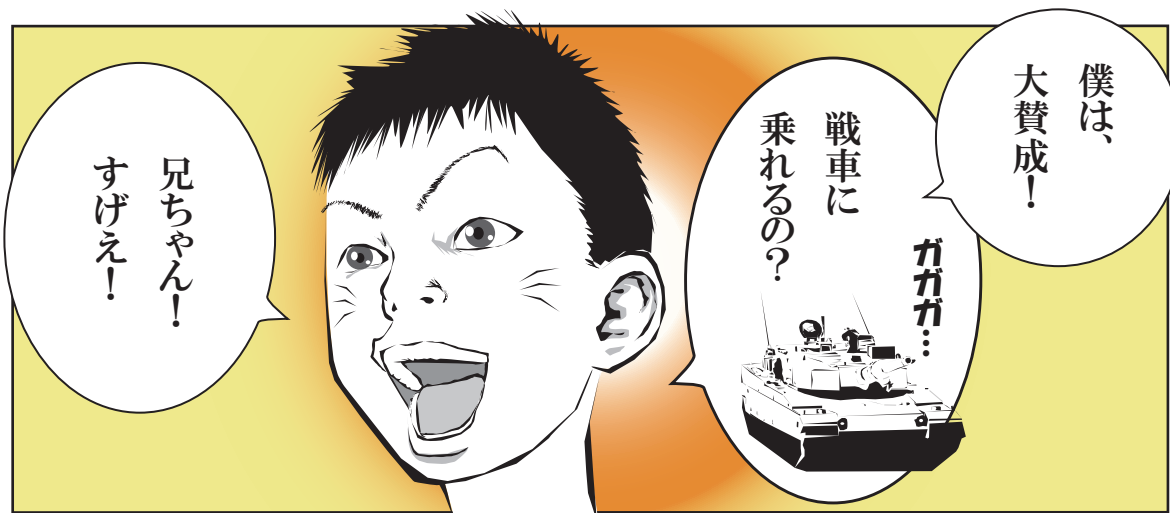
まず、
それまでの僕をよく知っている
母が反対した。



続けるのか、
厳しいぞ!

よく考えて
決めなさい。

日ごろ何も言わない
父も心配した。



弟は賛成。
当然、戦力にならず。

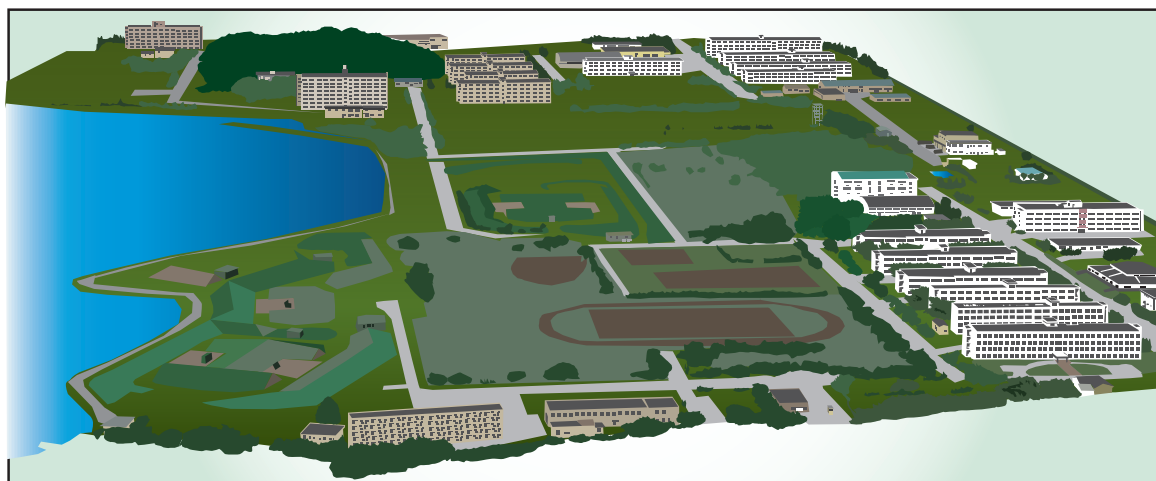


その時、僕は、
少年工科大学校という
新たなステージで
経験値を上げて
強くなれると
根拠のない自信に燃えていた。



両親は、
言い出したら
聞かない僕の
性格をよく知っている。
後で分かったことだけど、
両親は佐藤さんから学校の
情報を詳しく知らされていた。

※卒業時には神奈川県立横浜修悠館高等学校の卒業資格が得られます。



平成十八年、
春、
僕は、
横須賀に来た!



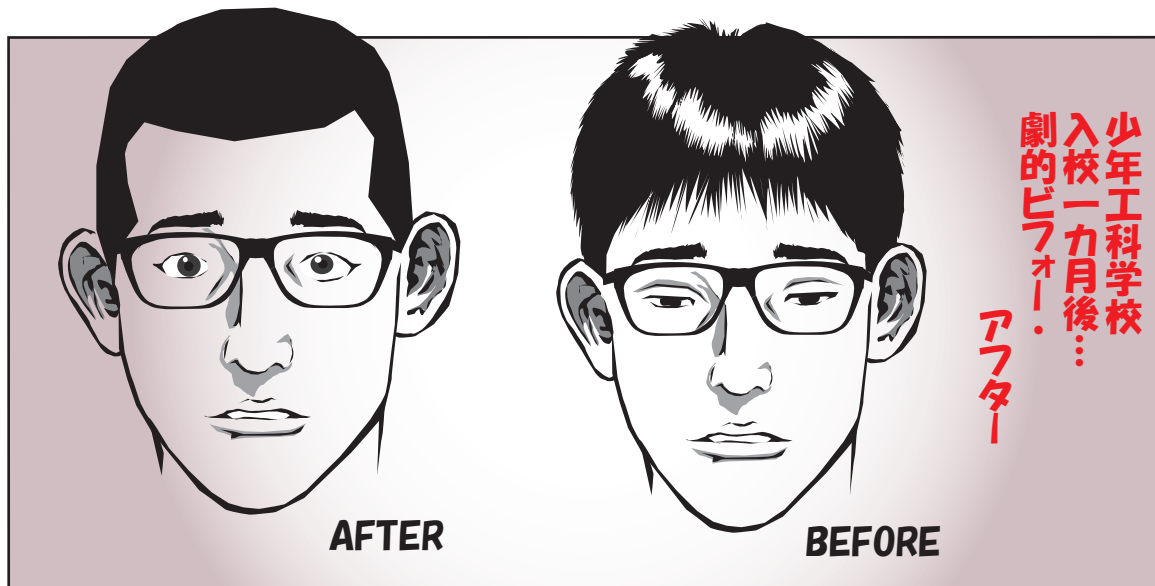
入校して間もなく、
六四式小銃を渡された。
ゲームの中で武器をゲットするのは違って
責任に重さがあるのを身体で知った。

それから、
激流のような
一日が始まった。

この世界では、僕の十五年間の人生で得た
「ちから」も「すばやさ」も「みのまもり」も
まったく通用しなかった。
痛切に「マジックパワー」が欲しかった。

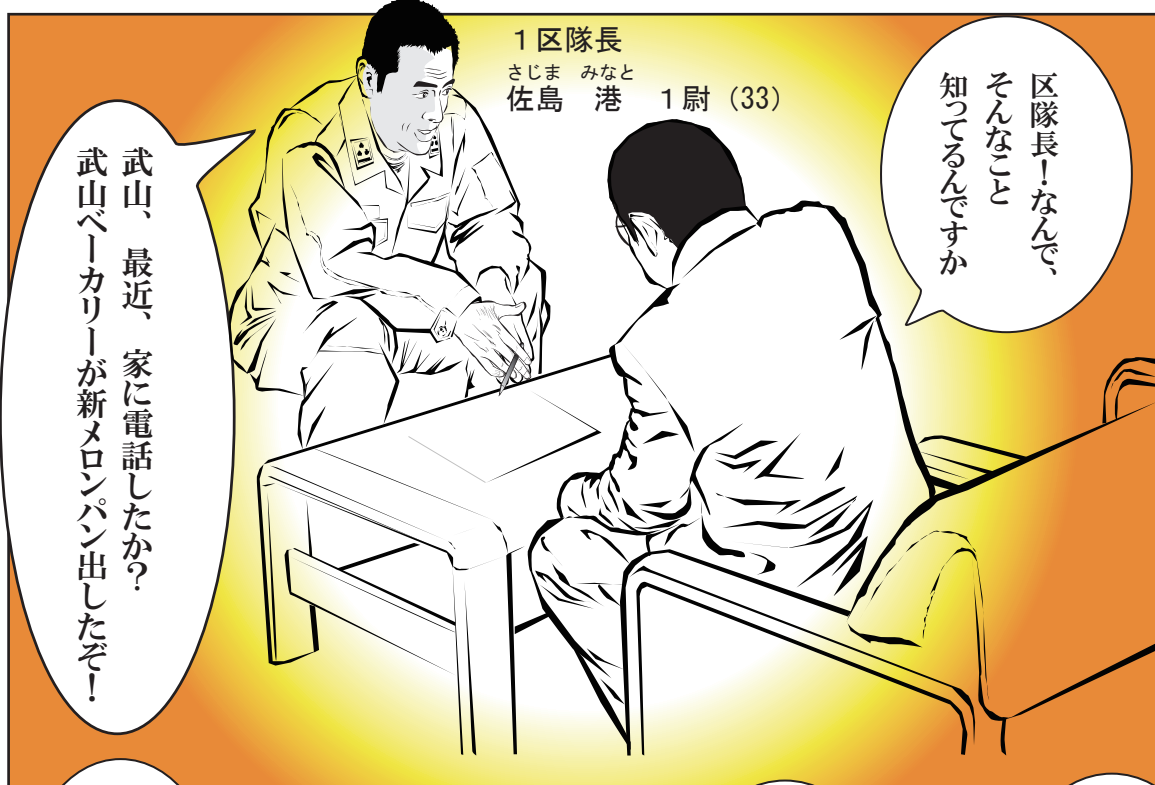
※括弧書きの意味は、お近くの
ドラクエファンにお聞きください。

0600	起床
0645 ~ 0745	朝食
0800 ~ 0820	朝礼
0815	国旗掲揚
0825 ~ 1155	午前の課業
1200 ~ 1250	昼食
1300 ~ 1700	午後の課業
1700	国旗降下
1600 ~ 1800	クラブ活動
1710 ~ 1900	入浴
1745 ~ 1845	夕食
2030 ~ 2240	自習時間
2300	消灯



少年工科大学
入校一カ月後…
劇的ビフォー・
アフター

でも、
この激流の中で、
不思議と気持ち
折れなかったのは…



1 区隊長
さじま みなと
佐島 港 1 尉 (33)

区隊長！なんで、
そんなこと
知ってるんですか

武山、最近、家に電話したか？
武山ベーカーリーが新メロンパン出したぞ！

驚くほど両親と
繋がっている区隊長や



武山ちゃん
元気ないじゃん

たけ！
元気か！

まもる
くっ！
元気かい

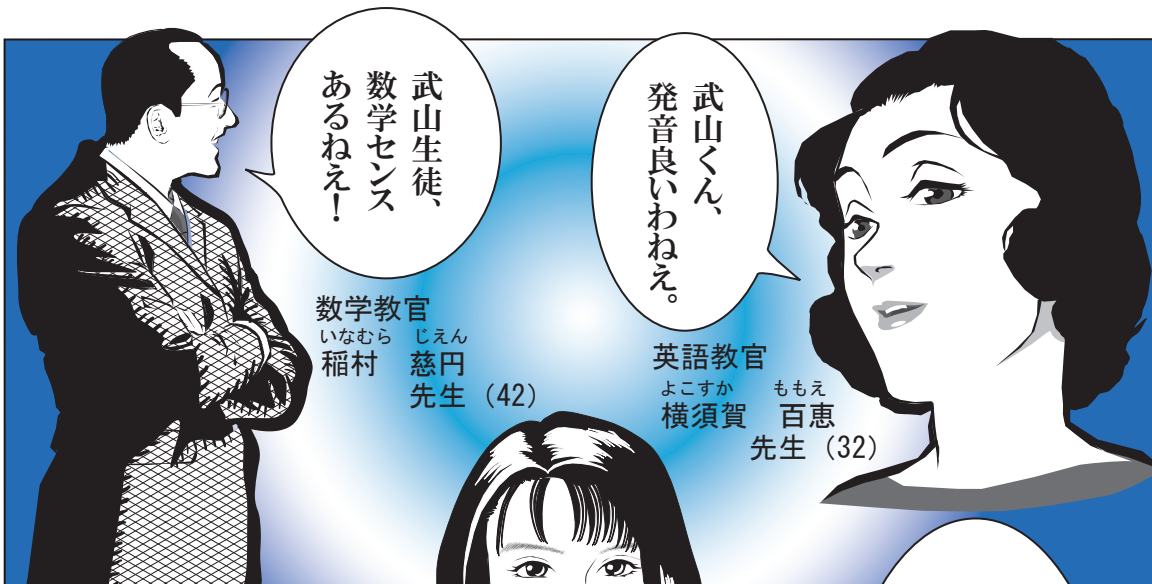
1 教隊先任上級陸曹
みうら あさいち
三浦 朝市 曹長 (45)

1 区隊付陸曹
じょうがしま わたる
城ヶ島 渡 2 曹 (36)

1 区隊付陸曹
のび ふとし
野比 太 3 曹 (28)

こんなにも
僕に、声を
掛け続けてくれた
陸曹の方々…

見守って、
元気づけてくれた
先生方や
職員の方々の
支えがあったからです。

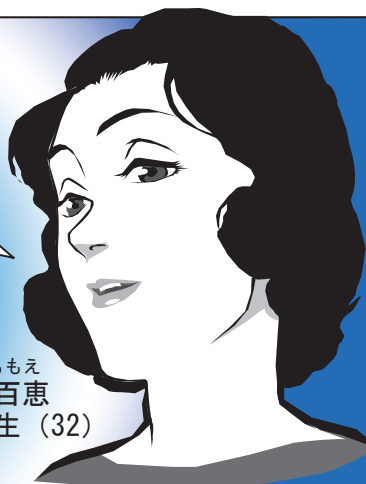


武山生徒、
数学センス
あるねえ！

数学教官
いなむら 稲村
じえん 慈円
先生 (42)

武山くん、
発音良いわねえ。

英語教官
よこすか 横須賀
ももえ 百恵
先生 (32)



なつかしいなあ。
私も帯広出身なのよ。
君んちのメロンパンのファンだよ。

庶務陸曹 (秘書)
はやま まりな 葉山 真里菜
3曹 (24)

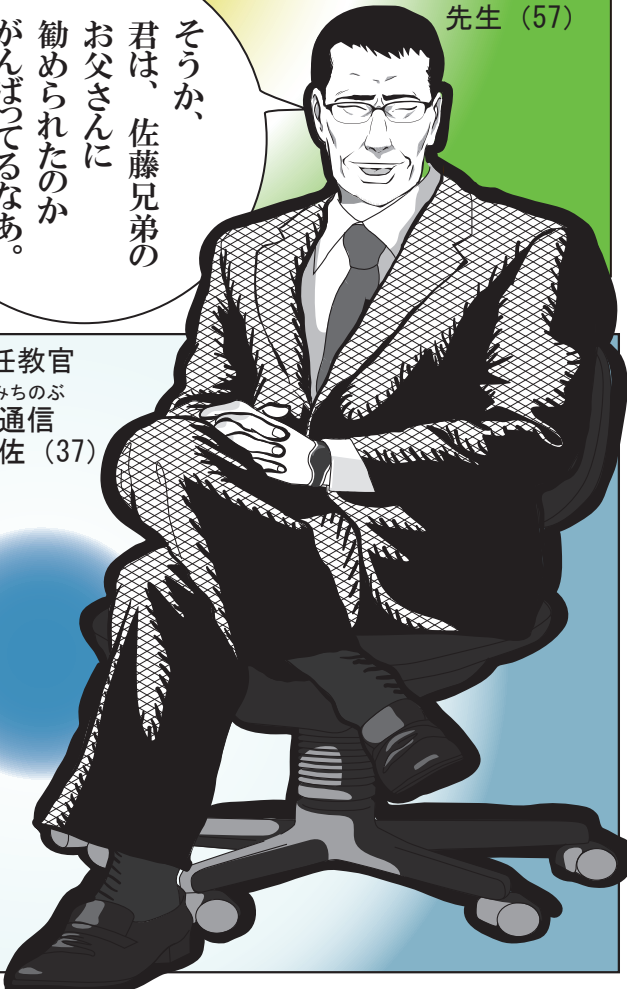
第2教育部長
かまくら せいじ 鎌倉 政治
先生 (57)



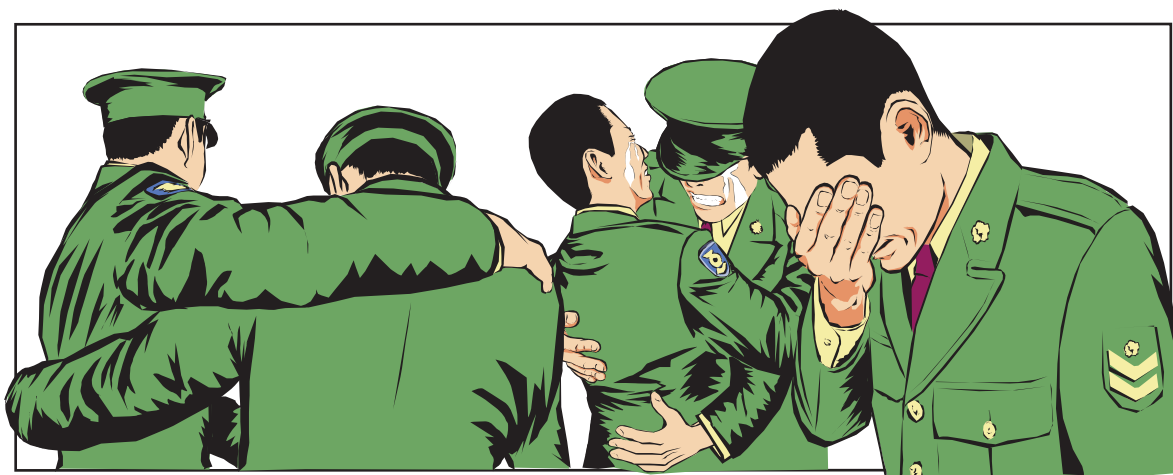
武山、
プログラムのこと
解ってきたじゃないか。
いいねえ。

電子科主任教官
くりはま みちのぶ 久里浜 通信
3佐 (37)

そうか、
君は、佐藤兄弟の
お父さんに
勧められたのか
がんばってるなあ。



なんだか
みんな、
熱くて
暖かくて
優しかった。



でも、
三年間、いちばん
僕を支えてくれたのは、
こいつらだった！

学校に入って一カ月過ぎ、
家が恋しくなって、
僕の心が折れそうになっていた
ある日の朝食の風景…



それは、
よい質問だよ
武山くん！

おゝい、一区隊の諸君！
いま家に帰りたくない奴
いますか？！



おまえ、
家に帰りたく
ならないか？



俺、家で、
めざ〇しTV
見ながら
飯食いたい！

こいつら、
馬鹿で、
遅しくて
大好き

ワシ、
みの〇んた
ファン！

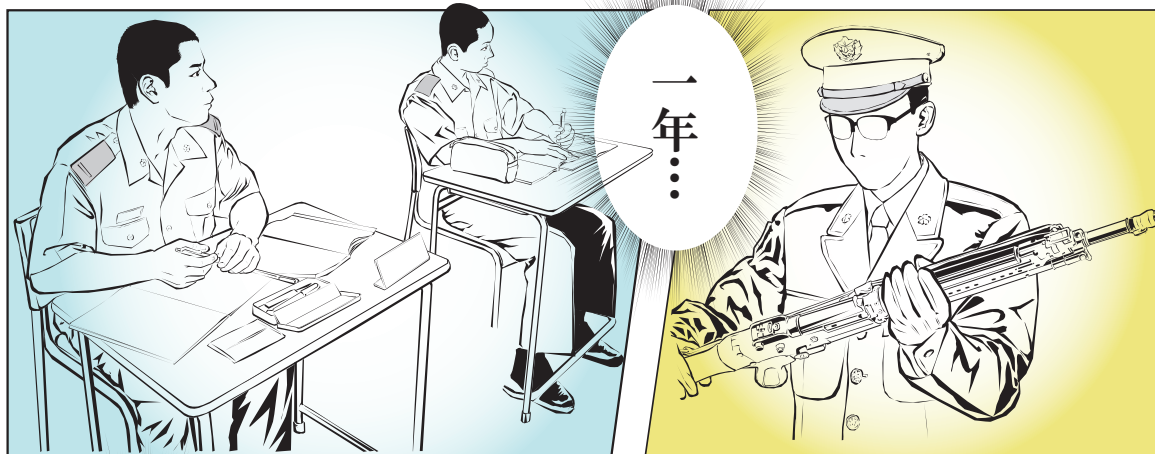
おまえ、
オカシイんじや
ないの？

帰りたくない奴つて
いるのか。
そんなDMの奴！

それより、
昼飯ステーキ
だつてよ。

おまえ、
献立表、
暗記してるのかよ。

ということだよ。
武山生徒。
悩んでも、
腹は減る。
俺は食う！



「三日、三月、三年」という言葉がある。三日我慢できたら、三か月我慢できる。そうすれば三年我慢できる。という意味らしいが、



僕にとっても、少年工科学校の三年間は、 $y=11x^2$ の曲線を描いて過ぎて行った。



そして三年生になった。

この頃、ゲームをなんとか卒業した僕は、本を読むようになった。毎日、走ることと身体を鍛え物語を書き続ける村上春樹の生き方を。知ったのが小説を読むきっかけとなった。

最高学年の三年生になって、大好きな仲間がいるといつても、団体生活には、ちょっとしたトラブルはある。その時、僕は走った。

それでも、落ち込みの激しい時には共に走ってくれる同期がいて、僕は少しずつ強くなっていくことができた。



『誰かに故のない』
(と少なくとも僕には思える)
非難を受けたとき、あるいは当然受け入れてもらえるか期待していた誰かに受け入れてもらえなかったようなとき、僕はいつもより少しだけ長い距離を走ることになっている。

いつもより長い距離を走ることによって、そのぶん自分を肉体的に消耗させる。そして自分が能力に限りのある、弱い人間だということをあらためて認識する。いちばん底の部分でフィジカルに認識する。



そしていつもより長い距離を走ったぶん、結果的には自分の肉体を、ほんのわずかではあるけれど強化したことになる。

腹が立ったらそのぶん自分にあたればいい。悔しい思いをしたらそのぶん自分を磨けばいい。そう考えて生きてきた。』

村上春樹
「走る」とについて語るときに「僕の語る」とい



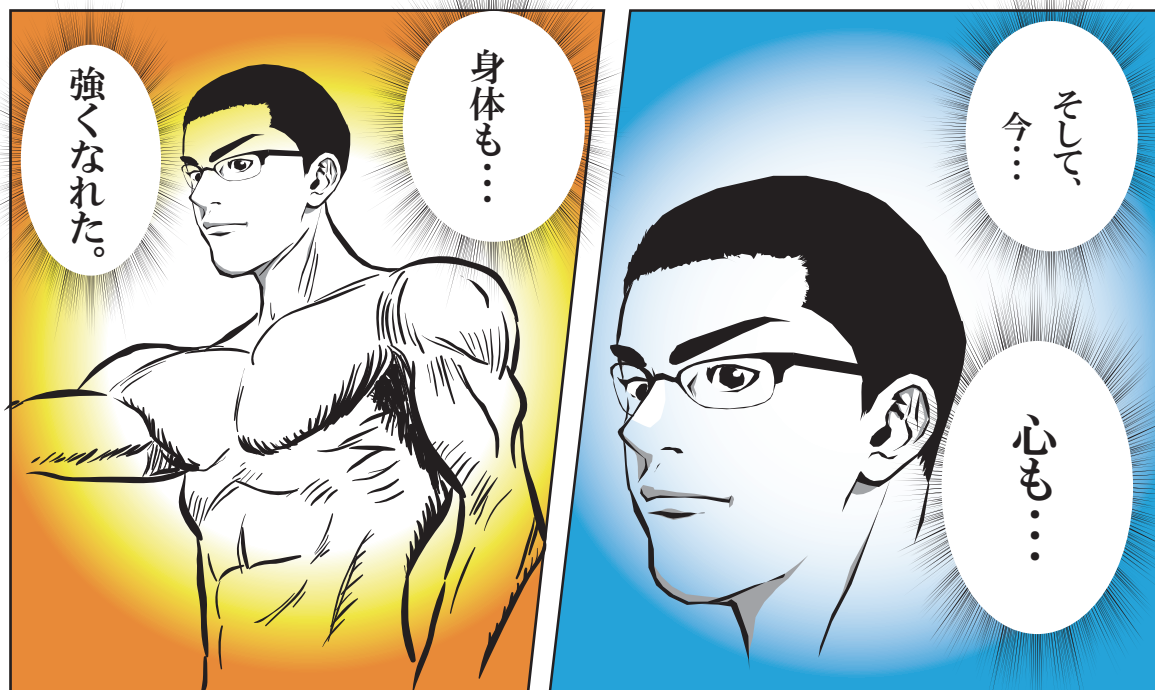
マメル！
お前、また、考えすぎだぞ

出た！
号泣男子！

ありがとう…
ううう

衛は
やつば、
M男だな！
ちなみに、
俺はS！

きっぱり！



そして、卒業を迎えた今、
心も、身体も...
強くなることができた。

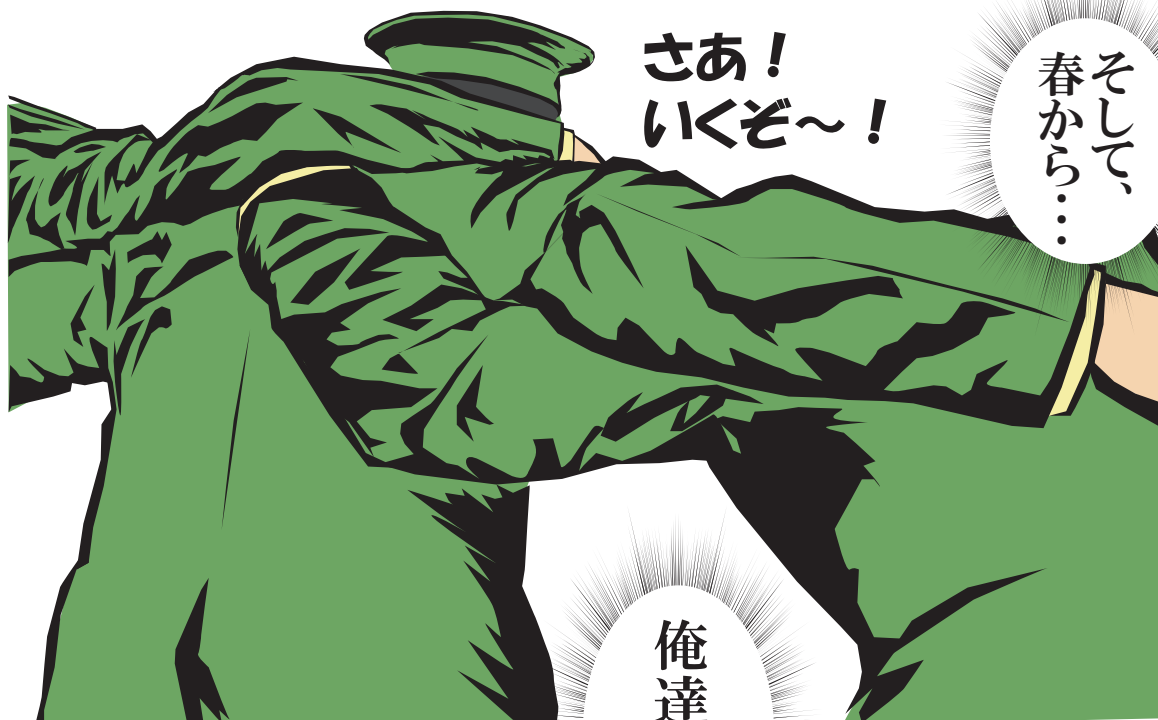


それに、
最強の
友がいる。

みんな！
隠せよお〜

ちよつと、
やばくない？

細マッチョ！



さあ！
いくぞ～！

そして、
春から…

そして、
俺たちは、
それぞれの
道を歩み始めた。

俺達は…



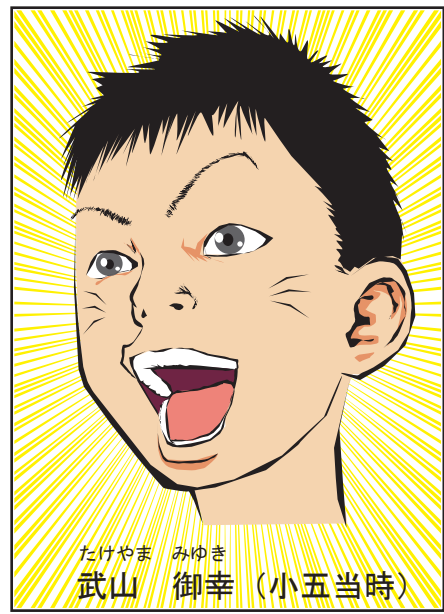
それぞれの道を
行く…



TO BE CONTINUED

生徒物語は続く。

二十二年春から始まる
高等工科学校の
第五十六期生徒を
受験することを決意した。



たけやま みゆき
武山 御幸 (小五当時)

兄、武山衛にあこがれる弟、
武山御幸は、中学三年生。



来たよ!
兄さん!

よう!
後輩!

少年工科学校
平成二十一年卒業
第五十二期生徒
武山 衛

高等工科学校
平成二十二年入校
第五十六期生徒
武山 御幸

作者第1話 あとがき

生徒物語、第1話「武山衛」を読んでもいただきありがとうございます。
この作品は平成22年度に陸上自衛隊少年工学校校が高等工学校校に改編されるにあたり、学校を多くの方々に知っていただきたいと思いますと思い描きました。

作者は、本年4月に副校長として着任以来、素晴らしい環境とスタッフの下で、逞しく育っている“生徒”の存在や学校の認知度が低く、これを広く一般の方に知っていただく必要性を痛感しました。そこで、成長していく生徒達とそれを支える人たちの物語として「生徒物語」を漫画で描こうと考えました。私にとって、このような、ストーリーのある漫画を描くのは初めてのチャレンジでしたが、勤務時間外の余暇時間を使って、試行錯誤を重ねつつ五カ月かけて、やっと第1話の完成に至りました。

この過程で、勉強させていただいたのが「スラムダンク」や「リアル」の作者、井上雄彦先生の作品でした。コピーはしてありませんが、描き方や表情は相当研究させていただきました。さらに、創作という面で、村上春樹の「1Q84」の天吾の姿に励まされました。さらに、第1稿から第3稿までの修正の過程で多くの方々の助言や貴重な指摘をいただきました。ほんとうに、ありがとうございました。

なお、漫画のコマ割りに関してはネットで公開することを前提に工夫しております。つまり、パソコンの横長のディスプレイ上で100%の縮尺で縦にスクロールして読めるようにコマ割りし、右側に映画のコンテのようにナレーションをつけました。プリントアウトしなくとも、パソコン上でストレスなく読めるように工夫したつもりですが、今後、表現方法には、さらなる研究をしていきたいと思っております。この点に関しましてもご意見ありましたら、よろしくお願い致します。

2009.09.01

少年工学校副校長

みはら こうめい
1等陸佐 三原 光明

2009.9.1



TO BE CONTINUED